

# 虚子記念文学館投句特選句

・令和二年六月

稲畑汀子 選

ひつそりと逝かれし人も梅雨の月

兵庫

池田雅かず

雷のやみては次を待つ心

神奈川

進藤剛至

虚子館の青葉に伸ばす手足かな

兵庫

玉手のり子

海の香の強き一と日や梅雨兆す

兵庫

小杉伸一路

降り立ちて入る記念樹の蔭涼し

新潟

安原 葉

万緑に染まり健やかなる集ひ

兵庫

内田泰代

空蒼く川は濁りて梅雨晴間

愛知

村瀬みさを

水音の心地良き庭合歓咲けり

大阪

徳岡美祢子

さくらんぼ種出すまでの至福かな

兵庫

山口弘子

ともかくも顔見るだけの水見舞

兵庫

柄川武子

# 入選句・令和二年六月

崖のうへ婆の御居処や芝桜	山梨	西岡 信	あぢさゐを丸めて包む空気かな	香川	木村 霞
一万一回目の奇跡流れ星	京都	杉森大介	螢火掬ひ青く透けるや指の隙	神奈川	金子三奈乃
殻こもりなんぞ不満かかたつぶり	神奈川	平野政良	万物の基は素粒子蛍舞ふ	東京	土々
弾み来し二月振りの句座涼し	兵庫	森岡喜恵子	夏至夕べ雲ありながら明るくて	石川	辰巳葉流
四ヶ月ぶりの芦屋は葉桜に	広島	広川良子	万緑に溶け込むわが身ありしこと	石川	辰巳昌彦
堂の闇粹に押し込む新樹晴	大阪	山下幸典			
漆黒の茶碗に見入りゐて涼し	兵庫	吉村玲子			
風は今山から海へ青芒	兵庫	長安悦子			
憂さ払ふやうな潮風初夏の浦	滋賀	石川多歌司			
実梅の香低く零して館の雨	大阪	杉山千恵子			
久し振り芦屋降り立ち青芒	兵庫	平田 恵			
転居先元田圃とて水見舞	兵庫	小川孝子			
鬱々と自粛の空気梅雨に入る	奈良	好川忠延			
稜線に梅雨の欠片も無き芦屋	兵庫	岩水ひとみ			
並びゐてアートとなりぬさくらんぼ	兵庫	山岸正子			
手入れなき庭鮮やかにゼラニウム	大阪	辻 昌子			
再会の笑顔はじけて句座臯月	兵庫	金田八江子			
ゼラニウム微動だにせず昼下り	兵庫	三木雅子			
コロナ禍や茅の輪くぐりの列続く	兵庫	伊藤秀子			
たちまちに梅雨霧深く沈む街	兵庫	田村恵津子			
伯父召さる天上高く烏蝶	千葉	玉井令子			
短夜や妣の寝間着の花模様	埼玉	土井洋子			
ウイルス禍いとひ合ふより臯月句座	兵庫	西村みどり			
再会も離れて会話梅雨の句座	兵庫	入谷千恵子			
はじけるは夢のごとくと花火咲き	和歌山	中平光咲			
蒼滲む時の彼方へ蛍飛ぶ	東京	三球			
里家訪ひ生きよ伸びよと青芒	石川	牧野妙子			
旅のごと久に虚子館ねぶの花	兵庫	岩鼻絹子			